

第百六十七話 一縷の望みもなかったのか？

大東亜戦争を知れば知るほど悔やまれるのは、第一段南方作戦終了後の戦略として、引き続きその占領地域の拡大を図ったことだ。為に戦面が拡大し、結果的には米軍の蛙飛び作戦に翻弄され、消耗戦に陥り、破局にまっしぐらに向かってしまった。当初の構想通りに戦っていたとしたら、結果的に日本は負けたとしても、戦局は相当異なったものとなり、破滅的な敗戦は避けられたかもしれない。

1 当初の第二段作戦指導構想

開戦前には、明確な戦争指導計画はなく、第二段作戦構想を知りうるのは、昭和16年11月13日大本営政府連絡会議で決定された「対米英蘭戦争終末促進に関する腹案」である。それによれば、南方要域攻略後は「西太平洋における政戦両略上の長期不敗態勢」を確立して長期持久の態勢を整えることとなっていた。

2 実際の第二段作戦

第一段作戦においては、その作戦目的も占領すべき範囲も陸海軍間に差異は無かった。然しながら、予期以上の第一段作戦の進展により、陸海軍間の内包する思惑が表面化してきた。陸軍は、大局的には開戦前に定めた戦争指導構想の通り、長期持久の態勢に転換することを企図していた。海軍と連合艦隊は、初期進攻作戦の成果を拡大して、太平洋正面への攻撃続行を検討していた。軍令部は豪州の孤立化等による英国脱落と広域の要撃態勢確立を、連合艦隊は、中部太平洋における早期の対米決戦による短期戦化を目指していた。

これらの基本的な考え方の相違を残したまま、初期作戦成功後の戦争指導構想を検討、3月7日「今後採るべき戦争指導の大綱」を決定した。正に妥協の産物であるそれは、「長期不敗の態勢を整えつつ機を見て積極的の方策を講ず」とした。

海軍の第二段作戦の重点は、太平洋正面に指向され、特に連合艦隊は、米国の早期屈服を目指すハワイ攻略作戦を念頭にミッドウェー攻略作戦に突き進んでいった。

不幸なことに戦争指導構想の分裂である。陸海軍間、軍令部と連合艦隊の考え方が一致しないままだった。

3 長期不敗態勢

連合艦隊が行ったミッドウェー作戦やガ島への飛行場建設等は長期不敗態勢確立には無縁な作戦であった。その事後に及ぼした影響の甚大さを考えると悔やまれる。

長期不敗態勢確立には①昭和18年9月に定められた絶対国防圏を当初から指定して不沈空母と化した一大要塞群 ②内地と南方資源地帯との海上交通路の確保措置(船団護衛措置) ③陸軍部隊の大幅な増強、陣地構築(洞窟陣地化)準備の推進、所要の物資集積(陸軍は、太平洋は海軍担当と冷ややかだった?) ④航空機や船舶の増産 ⑤米軍反攻を遅らせるための潜水艦部隊による通商破壊や艦艇攻撃 ⑥連合艦隊の泊地の整備と防護等が必要であり、それは可能だった筈だ。

4 結果的には敗けたとして敗け方には大きな違いがあったのでは？

戦争初期には、米国も太平洋正面は次等正面であり、日本が万全の不敗態勢を構築していたならば、易々とは来襲し得なかつただろうし、その間に和平の糸口を掴めたかも知れない。軍事的に米国を屈服できないとしても敗け方は選べただろう。

海軍と陸軍の戦略思想の差異はあるのだろうが、何れにしても徹底的に議論せず、文言の妥協で御茶を濁す日本的な解決策は極めて問題だし、その場合に大所高所から裁定する戦争指導者の不在(天皇は無答責であり、天皇以外の戦時リーダー)も問題にされるべきだ。

(第百六十七話 了)